

平成 26 年度第 2 回
八溝山周辺地域定住自立圏共生ビジョン懇談会会議録

開催日時	平成 26 年 8 月 7 日 (木) 午後 1 時 30 分～午後 3 時
開催場所	那須野が原ハーモニーホール 交流ホール
出席者	<p>【委員 20 名】 小林会長、川嶋副会長、玉木副会長、北島委員、江部委員、戸澤委員、岡野委員、室井委員、村山委員、川崎委員、星（史）委員、矢内委員、野口委員、大相委員、鈴木（英）委員、鈴木（義）委員、星（昌）委員、吉田委員、川井委員、石井委員</p> <p>【欠席委員 3 名】 渡邊委員、荻原委員、鈴木（美）委員</p> <p>【オブザーバー 14 名】 福島県（3）、茨城県（2）、栃木県（1） 那須塩原市（2）、那須町、那珂川町、棚倉町、矢祭町、埴町、大子町（各 1）</p> <p>【事務局 6 名】</p>

1 報 告

- (1) 八溝山周辺地域定住自立圏共生ビジョン懇談会委員からの質疑について
資料 1 により事務局説明
- (2) 今後のスケジュール等について
資料「八溝山周辺地域定住自立圏のスケジュール」により事務局説明
⇒質疑等なし

2 議 事

- (1) 八溝山周辺地域定住自立圏共生ビジョンについて
資料 2、3 により事務局説明

○説明要旨

- ・資料 2 については、第 1 回の懇談会で示した資料と同様なものであるが、庁内及び連携市町とで検討・協議を行った結果、事業費等に変更が生じた。
- ・資料 3 について、各分野の「現状と課題」、「取組方針」を記載した。

(2) 意見交換

- 会 長 意見交換の時間を取りたいと思う。皆さんからの提案、質問を事務局が答えるという一方で、色んな分野の専門の方がいるので、委員同士が情報を共有することで、何か詰められるという側面もあるので、事務局への提案、質問でも結構だが、他の市町の動きなどを聞いて、民間サイドでできるものなど多面的な角度から意見を出してほしい。
- 会 長 まず、自分の研究テーマから思ったことを質問させていただきたい。認知症の高齢者が徘徊して行方がわからなくなったときに大田原市では、近隣の那須塩原市、那須町に情報を流して、捜してもらおうといった仕組みはあるのか。
- 事務局 そういった仕組みはない。
- 会 長 そういう仕組みさえ作れば、予算とは関係なく動けるのではないかと思う。消費者被害も同様に、ある地域でこういう被害が出ていますよという情報を行政が共有するよう進めていけば、予算を伴わない連携ができるのではと考える。
- 委 員 地域公共交通のことで、私も地域公共交通会議の委員となっているが、那須町には大きな病院がないということで、白河、黒磯、大田原の病院に行きたいという要望に対して、他市町への乗入れに関する問題がある。
- 事務局 資料1の(地域公共交通に関してどのように取り組むのかという質問の)回答に、乗入れに関する検討・検証等となっているが、この乗入れに関する問題はここで具体的な検討が進められるということか。
- 事務局 7月23日に地域公共交通担当者会議を開催し、大田原市、那須塩原市、那須町の担当者が集まり、まずは相互乗入れに関して、何が問題で何ができるのかという意見を出し合った。
- 委 員 定住自立圏構想がきっかけとなり、市町村域を越えた地域公共交通の検討がやっと始まった。
- 委 員 今度、那須町の地域公共交通会議で八溝山定住自立圏において検討を進めているという報告をさせていただきたい。
- 委 員 冒頭に那須にも定住自立圏構想があるという説明だったが、八溝にも那須塩原市、那須町、(那珂川町)が入っているが、その辺の区分けというのはどうなっているのか。
- 会 長 確認だが、那須地域定住自立圏は正式に動き出しているのか、それとも仕組みづくりの途中なのかその辺も含めて回答してほしい。
- 事務局 那須地域定住自立圏については、平成25年12月に中心市宣言を行っており、今後はどういう協定を締結するのかを協議中である。中心市

宣言では、エネルギー分野と観光分野をメインテーマとして進めていきたいということである。

会長 今後、協議を進める上で、八溝山定住圏と那須定住圏の事業の棲み分けをしていこうということは担当者レベルでは確認をとっている。
矢祭町の青年部でこういう取組をやっているとか紹介していただけますか。

委員 県内の商工会青年部の交流が盛んで、うまいものフェスタ、フードフェスタなど、各地域での食べ物を扱ったイベントが多い。

会長 ある程度の人数は集まるのか。
用意した分は売り切っている。

委員 青年部員も稼業があるため、フェスタなど盛んになると負担が大きくなるという問題も出てきている。

会長 定住自立圏の定住という言葉で思うのは、首都圏で八溝山地域のPRをして、新たに人を呼び込むという取組。そのために空き家情報を共有するとかそういう取組はあるのか、或いは検討されているのか。

また、大田原市だけではなく、他の市町でそういう取組があれば紹介していただきたい。

事務局 資料2のNo.33に「外部から人材確保」という事業を予定している。一般財団法人まちむら交流きこうという団体があり、この団体は、全国で都市と農山村の交流を手掛けており、ここからアドバイザーを招へし、空き家の活用、結婚促進などの提言をいただこうと思っている。

空き家に関しては、大田原市で空き家情報バンクの制度をようやくスタートさせた。

会長 栃木県宅地建物取引業協会と連携して、大田原市が独自に進めているが、今後は定住自立圏で情報を集めてやっていきたいと考えている。

情報発信に関して、利用者にアクセスしてもらえば、情報を得ることができるが、アクセスしてもらった営業活動のようなものをやる考えはあるのか。

事務局 空き家情報バンクについては、まずは大田原市の中心市街地にあり、流動的に貸借ができる空き家のデータを得ていこう。そして、データベースを構築し、外部人材の方に情報発信をお願いしていくことを考えている。

八溝山定住圏で取り組むならば、それぞれの市町がもっている空き家の情報を共有し、首都圏に発信して二地域居住や田舎暮らしを楽しんでもらうといったことが考えられる。

それから、グリーンツーリズムについて、大田原市では株式会社大田原ツーリズムを立ち上げ、首都圏にある学校の教育旅行の受け皿として

農業体験や農家民泊などを行っている。

会長 資料 2 のNo.33 の外部人材に大子町も予算がついているが、どのような事業内容か。

大子町 情報関係で、コスト見直しを図るためと、合せて番号制度についてもご提言いただくためのアドバイザーの派遣事業。

委員 資料 2 の予算の合計額が、大田原市で 2 億 6,962 万円、圏域全体で 12 億 7,116 万円となっている。定住自立圏構想により国から特別交付税として、1 年間に中心市で 8,500 万円、連携市町で 1,500 万円が措置されるということだが、これだけの予算額と交付税の整合性というか、全体の事業として、前からこういうことをやっていかなければならなかったのか。予算措置についてお伺いしたい。

事務局 資料 2 の連携事業名を黒字で表しているものについては、定住自立圏に取り組む前から各市町で予算措置されている事業である。

これまで何の財源もなかったものが、その事業をビジョンに位置付けることによって、特別交付税措置される。

定住自立圏に取り組むことによって、事業費が増えるということではないことをご承知おきいただきたい。

今後の事業展開として、各市町と連携していく事業について、各省庁の補助事業の優先採択といったメリットもある。

会長 具体的な事業でいえば、No.1 の那須地区夜間急患診療所運営事業で大田原市の予算額が 1,262 万円となっているが、これが全部定住自立圏の事業として特別交付税措置されるのか。そうではなくて、これを飲み込んだ形での予算額となっているのか。

事務局 これまで他市町と連携してきた既存事業であっても事業によっては 1 円も特別交付税は入っていないものもある。しかし、事務事業として執行しなければならないものであり、それらの連携事業をビジョンに位置付けることにより、特別交付税が内数で措置される。

圏域全体で 1 億 9,000 万円もの特別交付税が措置されるのが、既存の連携事業だけをあてがっていたのでは、何のための定住自立圏なのかとなる。

一方でまったく新しい事業に 1 億 9,000 万円を充てるという発想もあるが、事務量の負担を考えた場合に初年度からは現実的に無理であるという判断をし、既存事業にあてがいつつも新規事業を行っていくという手法を取っていくことになった。

委員 今の話で、大子町では有害鳥獣対策が赤字となっているが、特別交付税措置されるということで新たに取り組み、事業費の何分の一かが措置される。

電気自動車の導入は黒字となっているので、もともと予算化してあったものをビジョンに位置付けこれも事業費の何分の一かが措置されるという考えでよろしいか。

事務局 おおかたそういう理解でよろしいかと思うが、国や県の補助金のように事業費に対して、何分の一措置されるという明確なものではなく、事業を行った分に対して、1,500万円を上限に措置されるというもの。

大子町の例で言えば、予算額の合計が7,599万円であり、このうち1,500万円が措置される。

他の圏域の事例をみてもこのように1,500万円をはるかに超える額が共生ビジョンに掲載されている。

会長 今回ビジョンに掲載されていない事業であるとか、協定を締結していない事業をやりたいといった場合、協定を見直す可能性を含めてビジョン懇談会の場で議論していいのか。

事務局 はい。

委員 道路インフラの整備促進に関して、主な事業内容として八溝山周辺地域定住自立圏道路整備促進協議会の設立と圏域図の作成ということが活動内容として挙がっているが、昨年度、我々が所属する野崎工業団地の第一、第二と西那須野工業団地連絡協議会の3団体の連名で県に道路整備の要望を出した。

事務局 道路協議会で想定されているのは、例えば医療、工業団地間、商業そういったどの辺の範囲なのか。

事務局 研究会の段階から八溝山を囲んだ2市6町の住民の行き来ができるようにと考えたときに、夢は大きくもとうということ、八溝山にトンネルを掘ったらどうかということから始まり、その前段として、圏域内の道路網図を作って、どの路線を整備したらいいのか議論していこうということになった。

部会では、圏域内1時間構想というような言葉も出て、どちらかというと住民の交流ができる生活路線から始めている。

委員 そのようなこともあり、医療や産業振興のための道路整備という議論には到達していないというのが現状。

委員 医療、産業振興のための情報を集めることが前提なのかと思ったが、圏域図を作成して、まずは住民の行き来そこからスタートしていこうということであれば、先ほど私が言った団体がこういう活動をやっている、或いは要望なんかがあるかもしれない。

委員 そういう情報を協議会が全部把握している。それで県に要望に行くというように発展してほしい。

委員 トピックスのようなものになるが、栃木県商工会議所連合会という団

体があり、県内 9 つの商工会議所が所属している。この中で年に 1 つ政策提言要望活動をやっており、今回新たに国道 408 号線、真岡市から北上し、高根沢町で 4 号線に入る道路があるが、八溝西地区整備関連として、それを高根沢町で分岐をし、さくら市、大田原市、那須塩原市の黒磯、那須町にかけて、地域高規格道路として延伸を要望することになっている。

委員 環境に関わる事業が少ないのではと感じている。協定書を見ると棚倉町と那須町を除き、耕作放棄地の解消と新規就農者支援という取組が一言一句違わず明記されている。

こういう中にありながら、共生ビジョンには事業の取組がされていない。

環境整備に対してどのように取り組んでいくのか、この 2 年間の大きな課題ではないかと思っている。

旧称で言うと「農地・水・環境保全向上対策」は全ての自治体の方へはご存知のことと思われ、既にやられていると思う。

新たに平成 26 年 4 月から「多面的機能支払」が始まり、内地では 200 ヘクタール、北海道では 3,000 ヘクタールとることが条件となっている。

この仕組みを使って、八溝山定住自立圏で 3,000 ヘクタールに相当する支援が受けられないかということを考えている。

水田の交付単価が 1 アールあたり 900 円～950 円。

取り組む上で共通のテーマをもとではないか。一つの例としてみんなで共通の花を植える。富山県の砺波市では 5 月になるとチューリップが咲く。

お金はそれぞれの自治体で持ってもらうが、八溝山定住自立圏という一つになることによって、日本の国の中でこの地域のイメージというものを膨らますことができる。

会長 何か一つの花にテーマを絞って、みんなで取り組むことによりアピール効果が生まれるのではないかと思う。

会長 環境整備というと幅が広いと思うが委員がイメージされているのはどこにポイントを置いたものか。

委員 休耕田の整備という中で事業を発展させてはどうか。

例として栃木県のロマンチック街道というものがあり、日光圏から鬼怒川圏に抜けているが、この構想を発展させれば、定期的にできるのではと感じている。

会長 委員からの提案について、事務局ではどのように感じていますか。

事務局 このような提言を基に次年度以降共生ビジョンに反映できるよう検

委員 討していきたい。

委員 以前、定住促進のための施策として、大子町が宅地を提供し、町外の方が住宅を建て、町に定住してもらおうという話があったと思うが、結果はどうなったのか。

大子町 平成21年度の施策で300坪の土地を20年間無償で貸すというもの。メディアにも取り上げられ、東京からの申込みが多く海外からも申込みがあった。

委員 16区画募集し、現在は15区画がうまっている。

委員 那珂川町でも同様の施策あったと思うが。

那珂川町 高手の里というところの100坪の土地を20年間住めば無償というもの。10区画ある。現在申込みを受け付けている最中である。

会長 どういう年齢層でどのようなところからの応募があったのか。

大子町 子育て世代に募集を掛けたが、1組のみでいわゆるリタイヤ世代がほとんどである。

那珂川町 応募条件を65歳未満で家族が2人以上とした。リタイヤ世代からの問い合わせが多い。

5 その他

- (1) 第3回ビジョン懇談会は10月2日(木)午後1時30分から道の駅那須与一の郷にある与一伝承館で開催する。
- (2) 参考資料として、研究会での「八溝山周辺地域定住自立圏の形成に関する研究報告書」を配布した。